

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 768 事業名 展示資料充実事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		社会教育費
	目		博物館費
	大事業		博物館事業
	事項		展示資料充実事業

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	2	文化遺産の公開と活用

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間		～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	寺西 貞弘 (423-0003)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他	○	その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
展示及び調査研究に役立てるために、博物館史料の充実を図り、和歌山の歴史に関する資料の蒐集を図ることによって、関係資料の市外流失を防ぎ、市民の財産として確保し、市民軍鹿野工場に寄与する。	資料購入予算を有効に活用して、博物館資料の購入を行うとともに、広く寄贈を促すことによって、博物館資料の充実を図る。なお、博物館資料は、市民共有財産となるだけでなく、調査研究の対象として、学芸員によって扱われた後、その成果に基づいて展示に供されることとなる。				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	館蔵資料の充実を図り、展示及び調査研究に役立てる。本年度は、紀州徳川家旧蔵の羽子板や紀州の画人の絵画などを購入予定。	館蔵資料の充実を図り、展示及び調査研究に役立てる。錦絵 高野山の道・道成寺、三十三間堂矢数年代記などを購入し、調査研究に役立てた。	館蔵資料の充実を図り、展示及び調査研究に役立てる。名甲図鑑新撰武術流・山本義和鷹・紀伊藩十代藩主 徳川治宝 外8点を購入した。	館蔵資料の充実を図り、展示及び調査研究に役立てる。	

2 事業コスト

事業費 千円	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費	2,000	1,821	3,000	2,958	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
	伸び率 (%)	-	-	50.0%		-23.3%		0.0%		0.0%
	人件費	常勤職員	2,984	3,724	3,724	2,942	2,942	2,949	2,942	2,942
		非常勤職員	627	759	759	808	808	303	303	808
	小計	3,611	4,483	4,483	3,750	3,750	3,252	3,252	3,750	
	国庫支出金									
	県支出金									
	市債									
その他										
一般財源(税等)	2,000	1,821	3,000	2,958	2,300	2,300	2,300	2,300		
所要人数	常勤職員	0.39	0.49	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	
	非常勤職員	0.43	0.37	0.43	0.32	0.32	0.12	0.32	0.32	

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
					年度目標値				
					実績値				
	単位	全体目標値	全体目標達成度		年度別達成度				
					年度目標値				
					実績値				
成果指標	購入資料件数				10	10	10	10	10
					6	17	17		
	単位	件	全体目標値	10	全体目標達成度	60.0%	170.0%	179.0%	
	寄贈件数				10	10	10	10	10
					14	12	13		
	単位	件	全体目標値	10	全体目標達成度	140.0%	120.0%	130.0%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	調査研究に必要な資料の購入はある程度購入はできているのが現状であるが、本市の博物館に所蔵すべき資料や物件の中には、高額なものも多く、資料充実を進めることにより、より充実した展覧会の開催を行えると考えている。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	